

# 魅力に惹かれて

もりした まこと  
森下 誠 さん(落合町阿部)



感謝の気持ちを忘れずに

**神楽の世界に引き込まれ**

私は小学2年生の頃から備中神楽を続けています。そのきっかけは、両親と一緒に見に行っていたときに、何か惹かれるものを感じたからです。私が所属している「成羽社」の5代目が近所にいたので、直接教えていただくことができました。現在は私が7代目として、先代の後を引き継いで活動しています。

若い頃は自分がうまくなるために練習に励んでいましたが、立場が変わった現在では、所属する7人が同じ気持ちで取り組むことができるようにとまとめて、良い雰囲気で行うことができます。また、先代から言い伝えられている「家族と一緒」という言葉があります。私たちが備中神楽をできているのは、所属する神楽大夫や周りの人、そしてそれぞれの家族の協力のおかげです。そのことに対する感謝の気持ちを忘れてはいけません。

**伝統を守るための課題**

今は年間で15、20回舞台に立っています。神社で披露することが多いですが、お祭りやイベントに行くことも増えています。しかしながら、少子高齢化や過疎化によって、「人がいない」「お金がない」といった理由から

# 伝承していく

**系譜を引き継ぐ**

先祖代々が備中神楽を演じていたので、物心がついたときから興味を持っていました。小学3年生のときに「平川子供神楽育成会」に入り、父や近所の人に教えていただきました。現在は「備中社」に所属しています。自分たちの練習に加えて子どもの指導を行いながら、技術向上に努めています。

えぐさ しんいち  
江草真一 さん(備中町平川)



**お客さんの言葉がうれしい**

備中神楽の言いたて(セリフ)を覚えることがとても大変です。普段使うことがない言葉を使うので、覚えるまでに時間がかかっています。現在は年間で10回程度、イベントや神社での奉納で備中神楽を披露しています。お客さんから「見に来てよかった」「面白かった」と言ってもらえるのがとてもうれしいです。

**何度見ても面白い**

備中神楽は勇壮な舞や優雅な舞、またユーモアのある場面も多くあり、何度見ても面白いと感じていただけるのではないのでしょうか。また、国の重要無形民俗文化財に指定されている備中神楽は、決まった形がなく、個人や社中によって違いがあるところも、備中神楽の魅力の一つだと思います。



**備中神楽を撮ることができなくな**

なった地域なども多く、昔と比べると披露できる機会は3分の1ほどに減っています。このことは、備中神楽を引き継いでいくための1つの課題ではないでしょうか。

**多くの人に見てほしい**

備中神楽を演じることの魅力は、観客の反応を間近で見ること

ができることです。その反応を見て、私たちも自信を持って舞うことができます。そのため、大きなホールで演じるよりも少人数の前で演じる方が、私は好きです。

実際に備中神楽を見たことがない人にも、さまざまな地域で披露されていますのでぜひ一度足を運んでいただき、直接見ていただきたいと思っています。

**父が引き継いできた伝統を**

子どもの頃から一緒に備中神楽をしている父は、私にとって神楽道の師匠でもあります。父の背中を見ながら引き継いできた伝統を、次の世代に絶やさないように、これからも守り続けていきたいと思っています。

**神楽を楽しんでほしい**

備中神楽は、見ている人を楽しませること、奉納して神様に楽しんでいただくという意味があります。氏子の減少でお客さんが少ない会場もありますが、近くで備中神楽があるときはぜひ見に行ってください。

